2025 年 11 月 28 日
愛知電機株式会社

2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）決算説明会における主な質疑応答

内容につきましては、ご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正しております。

全体
質問 1
米国関税政策の影響はあるか。

回答
米国関税政策の影響については、現在も不透明な部分が続いているが、当初の想定どおり大きな影響は出ないと考えている。
現時点において、米国への直接輸出があり、4.5 億円ほどの影響額とみている。

電力機器事業
質問 2
2026 年 3 月期はトップランナー基準改定前の駆け込み需要があるとのことだが、2027 年 3 月期はその反動減を心配する必要はあるか。

回答
トップランナー変圧器については、基準改定前の駆け込み需要等が旺盛であり、現在、工場はフル稼働している。過去の基準改定時においては、駆け込み需要と反動減が発生したと捉えているが、足元の外部環境は、競合メーカが事業撤退を発表している事実もあり、反動減を正確に予想することは難しい。新基準の変圧器は高効率仕様であり製品単価は上がる。
2027 年 3 月期については、一時的に販売台数は減る可能性はありうるが、シェア拡大と高効率仕様への変更に伴う販売単価アップにより売上拡大を目指してまいりたい。

質問 3
変圧器の電圧階級別の需要見通しについて、小型、中型、大型それぞれにおいて、どのように考えているか。

回答
小型変圧器、いわゆる柱上変圧器については、足元の販売台数は約 4 万台であるが、一般送配電会社の設備投資計画を踏まえると、売上は減少の見通しである。中型変圧器については、一般送配電会社向けの SVR や TVR などの自動電圧調整器は横ばいの見通しである一方で、一般産業向けは、2026 トップランナー変圧器のシェア拡大や販売単価アップによる売上拡大を目指していく。大型変圧器については、国内全体ではデータセンターや半導体工場の

新設等による電力消費量の拡大が見込まれるものの、当社の大型変圧器は、既設更新の需要が中心であり、横ばいの見通しである。

回転機事業

質問 4

車載空調モータの今後の見通しは。

回答

世界の新エネ車市場は、北米や欧州市場は鈍化している一方、中国市場は拡大が続いている。中長期的には、世界的な脱炭素化の流れが続き、新エネ車市場は中国主導で拡大するものと考えている。当社の車載空調モータは、BEV（電気自動車）だけでなく、PHEV（プラグインハイブリッド車)、HEV（ハイブリッド車）などの新エネ車で使われる製品であり、新エネ車市場全体の需要は中長期的には拡大すると考えている。当社は、国際情勢の変化に柔軟に対応して、国内外の生産拠点の最適化を図り、ものづくり力を強化して、この事業をさらに成長させたいと考えである。

プリント基板事業

質問 5

パッケージ基板用コア事業が急拡大している。この先の需要見通しは。

回答

プリント基板事業については、2025 年 3 月期の売上高は 251 億円と、2021 年 3 月期比で 2 倍以上に急拡大している。主力のパッケージ基板用コアは、データセンターの汎用サーバなどに組み込まれる CPU や、ゲーム機や車載部品などに搭載される GPU の部品として使われている。世界的なデータセンターの新増設を背景に、引き続きサーバ用 CPU や GPU に使われるパッケージ基板の需要が伸びると見込んでいる。

質問 6

パッケージ基板用コアの製造において、材料調達に問題はないか。

回答

取引先との秘密保持契約があるため詳細な回答は控えるが、世界的に材料の取り合いが起きている。当社グループにおいてもパッケージ基板用コアに使用する材料調達について苦労しているが、お客様をはじめとする関係先と連携し、現時点では調達の目途が立っている状況である。引き続き、材料メーカなどの動きに目を配りながら適切に調達活動を行い、製品を安定的に供給できるよう努めていく。

質問 7

パッケージ基板用コアは、汎用サーバ向けではなく、AI サーバ向けの需要はどうか。

回答

AI の急速な普及により生成 AI 関連の半導体需要が好調である。一方で、データセンター事業者が AI サーバへの投資を優先したことで、既存の汎用サーバの需要が停滞していたが、足元で回復してきたところである。当社グループでは、生成 AI 向け製品、汎用サーバ向け製品のどちらも製造しているが、多くが汎用サーバ向けである。よって、汎用サーバ向けが伸びると、当社グループの事業も伸びる。

質問 8

パッケージ基板のコア材料の値上げ、値下げの影響を教えてほしい。相当程度の影響がありそうだが、30%や 50%程度であれば価格転嫁はできるのか。

回答

パッケージ基板用コアの材料は、他の製品同様、原材料、物流費、人件費などが高騰している。また、ハイエンド製品で使われる材料については需給の逼迫が背景にあり、近年値上げが続いている。材料メーカは、自助努力によるコスト吸収が困難な状況であり、価格改定を実施している。 これらについては、お客様と交渉しながら価格に反映し、影響ができるだけないように努めている。なお、具体的な数値については、回答を差し控える。

以　上

注意事項

業績見通しなど将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。